

平成22年度 第1回 知床世界自然遺産地域 適正利用・エコツーリズム検討会議  
議事概要

平成22年6月22日(火)9:30~14:30

知床第一ホテル 宴会場

1. 開会

2. あいさつ 環境省釧路自然環境事務所長

3. 議事

(1) 知床世界自然遺産地域 適正利用・エコツーリズム検討会議の設置について

資料1-1: 適正利用・エコツーリズム検討会議の設置について(案)

(事務局) 検討会議の目的、構成委員、進行について資料1-1に基づき説明。

・事務局より座長を敷田麻実委員とすることを提案し、合意。

・敷田座長より会議進行について説明、合意。

(午前: これまでの検討経過、全体の検討の枠組み、既存の検討会議における検討状況、優先して検討すべき重要課題 午後: 個別地域の課題)

(2) これまでの検討経過の説明

資料2-1: 知床国立公園利用適正化検討会議 引継書

資料2-2: 中央部地区の利用状況、先端部地区の利用状況

(事務局) 資料2-1、2に基づき、これまでの適正利用に関する検討経過と中央部、先端部の利用状況について説明。

(座長) 過去五年間の検討経過について、委員であった小林委員、中川委員にコメントをいただきたい。

(小林委員) 適正利用を考えるにあたって、知床独特の問題として海域利用、ヒグマ管理等のリスク管理の問題が重要である。またエコツーリズムにおけるガイド利用と地域経済の関連性も重要である。

(中川委員) 行政機関、地元関係者が一元化された中で検討し、心得や基本計画が策定できたことが大きな成果である。

(座長) 過去五年間の検討があって今日に繋がっていることを承知置きいただきたい。つづいて地元関係機関からのコメントを願いたい。

(知床財団) いろいろな課題を整理して議論してきた事は成果であるが、一方でまだまだ概念的であって、今後は具体的に執行していく仕組みづくりが非常に重要。膠着状態であるカムイワッカでは、どこにも行くところの無い道路ができてしまっており、大きな問題である。以前環境省の所長が検討すると明言したにもかかわらず、具体的に議論されていない先端部地区の利用調整地区の問題も今後は議論していきたい。

(斜里町) 行政と市民が一つのテーブルで話してこられたことが一つの成果である。ただし、大きな方向性を出しても、個別に実際に進めていくためにはまだハードルがあると感じている。

(羅臼町) 個別課題が見出されたのはよかった。検討会議での大きな方向性については同意しているが、地元におろすと微妙な点で上手く行かない所が多く、現在地元内で検討の動きが始まっている。

(座長) 次に観光関係者からコメント願いたい。

(知床羅臼観光船協議会) 検討の成果は出てきていないと感じる。特に先端部の適

正利用が何も決まっていないうままである。今後はおおいにこの問題を取り上げてもらいたい。

- ( 知床羅臼町観光協会 ) 全般的なところは進んできたが、個別の問題はこれからさらに深める必要がある。羅臼は自然と町民の生活との関わりが非常に深いのでその点も重視していただきたい。
- ( 知床エコツーリズム推進協議会 ) 皆さんと同様、全般には進んできたが、個別の問題が残っていると感じている。特にカムイワッカ、知床五湖については適正な利用という言葉から、規制が進むという不安が地元にある。個々の問題については、観光協会およびエコツーリズム推進協議会として協力していきたいと考えている。
- ( 知床ガイド協議会 ) これまでの議論の方向性については良いと考えている。一方で特に五湖のシステムについては、まだまだ検討が必要。例えば今まで1日何千人と入っていた場所が、これから数百人しか入れないこととなる。もう少しどうにかならないのかと意見は言っているが、どうしても行政案が主導していくことについて、ストレスを感じている。現場に一番長くいるガイドにノウハウを十分聞いていただきたい。またシステムにガイドを組み込むということであれば、将来的なガイドの確保、養成についても協力願いたい。
- ( 座長 ) 全体の枠組みは検討できたが、個別の課題は解決できていないという共通の意見であり、今後それを検討していくことがポイントになる。次にこれからどのような枠組みで検討を進めるかを事務局から説明いただく。

### ( 3 ) 全体の検討の枠組みについて

#### 資料 4 - 1 : 適正利用・エコツーリズム検討会議の検討体制と今後の進め方 ( 案 )

- ( 事務局 ) 資料 4 - 1、当日配布資料 ( 適正利用・エコツーリズム検討会議の推進体制 ) に基づき、今後の検討体制、進め方について説明。
- ( 座長 ) 本検討会議における科学委員会の役割について、委員からコメントいただきたい。
- ( 間野委員 ) リスク管理の観点から、ヒグマの保護管理方針検討会議が新たに立ち上げられて検討がすすめられることになった。リスク管理は本検討会議も共通の課題として私たちが関わっていくことになる。持続的な利用を進めていくために、科学的な背景に基づき、また地域の現状を踏まえながら提案をしていきたい。
- ( 石川委員 ) リスク管理という話だが、人間が危機に直面している場合もあれば植物が危機に直面している場合もある。植物資源を失うというのも一つのリスクである。これまでエゾシカの問題をとりあげてきたが、最近気になるのは連山の利用に伴う植物の被害がある。こういった点についても現状報告、問題提起して議論に協力していきたい。
- ( 座長 ) 枠組みの説明に関して、質問、提案などはないか。
- ( 斜里山岳会 ) 知床横断道路が開通する二年程前にあった、知床横断道路環境整備協議会はまだあるのか。
- ( 事務局 ) 正式に解散してはいないと思う。
- ( 座長 ) 検討の枠組みに関して異論無いか。( 合意 )
- 座長より、事務局に対して以下の確認がなされた。
- ・ 検討範囲：知床世界自然遺産地域に影響があると想定されるものを検討範囲とする。( 区域外も含む )

- ・ エコツーリズムの定義：観光全体でなく、世界自然遺産地域管理計画の定義に基づき、観光の一部としてとらえる。

- (中川委員)エコツーリズムは保全が基本。世界遺産の保全を行いながらの活動である。
- (座長)保全＝規制ではないことをご理解いただきたい。規制が第一でなく、利用を持続的にするために、必要であれば規制をするということである。その他質問等はないか。
- (知床財団)全体会議は情報共有と合意形成だけだが、情報発信についてはどうするのか。五湖などではなかなか上手くいっていない現状がある。
- (小林委員)今の切り口は場の設定となっている。情報提供、アクセスの問題などは別の切り口であり、全体に関わる課題ではあるが、当初から検討に含めると混乱を招く。場を決めたなかで議論していくことが重要と考える。
- (座長)座長としても、この場ではまず検討を優先して、きちんと会議が回るようになってから実践部分を検討していくように考えたい。先行個別課題については関係者主体で検討を具体的に進めて、全体会議で報告、バックアップという考え方ではないか。
- (知床財団)了解。
- (中川委員)これまでにいたる検討経緯、各種制度などがあり、それらも含めて議論を行っていく必要性も生じる可能性がある。

#### (4) 既存の検討状況について

##### 資料3 - 1：既存検討会・協議会等一覧

##### 資料3 - 2：既存検討会・協議会等における検討状況

- (事務局)資料3 - 1、3 - 2に基づき既存検討会・協議会の検討状況について説明。
- (知床羅臼観光船協議会)個別課題について具体的に実践していった方が良いと思う。議論ばかりしていると何年たっても進まない。リスクを背負ってもやってみるという事も必要だ。
- (座長)全体会合と個別の会合という枠組みになることで、今までよりも検討の速度は加速すると考えている。他に意見はどうか。
- (知床財団)羅臼町・知床世界自然遺産協議会の中で進めている羅臼湖部会について紹介をしたほうがよいのでは。
- (羅臼町・知床世界自然遺産協議会)2回の検討部会をやっているが、それぞれの思いがあり、すぐに結論がでる状況ではない。羅臼町としてこの検討会で個別課題に参加していきたい。
- (座長)この件に関しては、議事録に記載することとし、特に資料は追加しないということによいか。(合意)

#### (5) 個別課題について

##### 資料4 - 2：優先的に検討すべき課題(案)

##### 資料4 - 3：エコツーリズム戦略の策定について(案)

- (事務局)資料4 - 2、4 - 3に基づき検討会議の優先課題、検討項目について説明。
- (座長)まず全体課題として、エコツーリズム戦略は策定するという方向で検討を進めていくことで問題はないか。(合意)

なお事務局として検討の目処の案はあるか。

(事務局) 期限はないがおおむね3年を目安として考えている。

(知床財団) 3年間も猶予の無い個別課題もあるのだが、その間はどうするのか。戦略が無いために個別課題では瑣末な部分で進まない事がある。戦略くらいは1年くらいでできると思う。

(座長) 間を取って2年でどうか。もちろん検討過程でいろいろな方針が合意されると思うので何もできないという事ではない。

(知床羅臼観光船協議会) 1観光業者として発言するが、3年持ちこたえられない業者がでてくる。経済の伴わない観光、エコツーリズムはない。3年、2年といわず、できるだけ早くやるという決意が欲しい。

(座長) 事務局の体制として対応できるか。

(事務局) 3年と申し上げたのはヒグマの検討を3年で考えているためである。戦略は先行的に検討を進めることは可能。頑張りたいと思う。

(座長) 3年は長いという指摘であり、1年間を目処で骨子を作って、2年間で具体化、合意形成までに3年と考えてはどうか。1年目でアウトラインができ、2年目で姿が見え、3年目では調整と個別課題の反映を行っていく。そうなると個別の課題は全体の検討に影響を受けることになるがどうか。

(知床財団) 戦略に盛り込むべき事項を見出すことが極めて重要だと思う。これ自体にはそんなに時間はとられないと思う。まずみんなが共有できる全体の未来像ができれば良いと思う。これができるれば個別の膠着状態にある課題も方向づけられると思う。

(知床羅臼観光船協議会) すべてできるまで待つのではなく、やれるものからやっていってくれば構わない。

(知床エコツーリズム推進協議会) 現在進んでいる個別の問題での検討が進み、それを踏まえて戦略ができあがって決まっていけば良い。したがって個別の問題をいかに進めるかが重要と考えている。戦略の策定をどれほど急ぐ必要があるかはわからないが、じっくり検討すればよい。

(座長) どちらが先かではなく、全体の戦略策定と個別課題の解決方向に整合性を持たせるためにも同時並行的に進める事となるがよいか。(合意)

(間野委員) この会議は世界自然遺産の管理ということが最大の目的だと思うが、現状で先行している3つの協議会があって、最終的に本検討会議の部会として統合していくということと認識している。各部会の検討と本検討会の全体方針と相矛盾しないための良い運営の仕方について考えがあればお聞かせいただきたい。

(座長) 個別課題は緊急性があり、議論は進めていくが、あくまで個別の全体の既成事実とはしないというルールが必要と認識しているがいかがか。

(羅臼町・知床世界自然遺産協議会) 環境収容力など簡単に結論がでない項目もある。それまでなにもしないということになるのか。それを心配している。

(座長) 個別課題でも簡単に進まないこともある。順番に解決できるものから解決していく。ただし、そのレベルで解決が図られた内容を全ての地区に適用していくことはできないと思われる。

(小林委員) サッカーでいえば、戦略では個人のポジショニングを議論しなければならないが、チームの全体の戦略が無ければ勝てない訳で、ポジショニングと同時にチーム戦略を考えなければならない。また資料の確認だが4-3の冒頭の( )~( )の

具体例というのは戦略に必ず盛り込む必要があるのか。

(事務局) 技術評価書は遺産推薦時のものであり、調査報告書がそれを反映した形となっており、本戦略に関連するものとして勧告14から16と意識している。

(座長) IUCNに指摘されたからということではなく、全体戦略はどのような方向でこの地域のエコツーリズムを推進していくかという合意事項なので必要だと思う。ただし、個別課題を解決する細かい規定はむしろ書かれないとご理解いただきたい。これまでの議論にしたがった、進め方、スケジュールに関して、事務局からは意見はないか。

(事務局) 基本的にその進め方で問題ない。検討を進め、見直す必要があれば見直すなど、順応的に対応していきたい。

(知床財団) 個別検討は全体検討と平行して進めざるを得ない。ただし重要な事はゾーン毎の具体的な未来像を共有するということだと思う。これまで検討してきた利用適正化基本計画、エコツーリズム推進計画は十分共有ができていない。改めて地域としての戦略、どういう風に品物を陳列するべきなのか、多様なニーズに応えていくのか検討が必要である。町の枠などにとらわれず、知床として何を提供していくのか整理していく事が必要である。

(座長) 本会議の検討は当面エコツーリズムに限定したい。ただし関係があるものについては検討課題に含めていきたい。そうはいつても地域の総合計画、振興計画などをつくるものではないことをご理解いただきたい。知床世界自然遺産地域および関連する地域についてエコツーリズムの振興と地域資源の保全、地域資源活用戦略をここで策定するということである。

(斜里山岳会) 資料4-2では知床連山の課題は優先課題に含まれないという事について考え方を聞きたい。

(事務局) 検討に必要な情報が少ないため、今後情報収集を進めて、それから検討を進めていく考えである。ほかの課題よりも重要ではないということではない。

(斜里山岳会) これまで資料もつくってきており、資料が足りないということはないはず。

(事務局) ニッ池に関して、迂回ルートを検討しなければならないと思うが、これは部分的な対応でなく、全体の利用を把握してから考えなければならないと思っている。

(座長) 山岳会が中心になって、検討グループをつくるのであれば、暫定的に優先課題に加えても良いのでは。

(事務局) 全く問題はない。

(座長) 優先課題が増えた場合、事務局の負担が増えるため、個別関係者が担ってもらうことになる。それで大丈夫なら構わないと思っているが。

(事務局) 我々ができる事も限られているが対応できる範囲については検討していきたい。

(知床羅臼観光船協議会) 資料4-2にある検討課題は、個人的にすべて最優先課題と考える。先端部は以前人が暮らしていた場所であるが、今では行ってはだめな聖域のように思われている。以前縦走者はほとんど瀬渡し船で帰ってきていた。船は乗船名簿があり、ルールをつくれればきちんと立入が管理できる。こういうことも課題の中で取り上げてほしい。以前は人が住んでいたが、今よりも景観がきれいで鹿もいなかった。是非こうしていこうという取り組みに対し支援して欲しい。羅臼湖もお金をかけずに歩み板を敷けば解決する問題である。

- (座長) 先端部を優先して検討すべきという意見だが、他にどうか。
- (知床財団) カムイワッカの問題は緊急課題である。今年度で道路工事が終わり、来年度どうするかが決まっていない。自動車の利用方法、1の滝までしかいけないがっかり観光地となっていること、硫黄山登山口も利用できないなど、かなり広範な課題になっている。いわば知床連山から岩尾別ホロベツ、カムイワッカにかけての全体のアクセスコントロールシステムについての検討ということが非常に緊急なテーマである。カムイワッカの個別の会議は膠着して全く進まないと思う。もっと専門家を含めて広い範囲で議論して、個別の会議に提言していくような動きが無いと進まない。海域レクリエーション利用のあり方はケイマフリと観光船の課題のようだが、そのような瑣末な問題を優先課題とし、目の前に迫っている問題を放置しているのは理解できない。
- (座長) カムイワッカと連山を含む広い範囲での課題を優先する事が良いという意見だが、その検討体制は知床財団で組めるか。
- (知床財団) 知床財団がやるものではない。
- (座長) ワーキンググループをつくってやっていかないと進まないということは一致したところだが、事務局に言っても限界がありできないので、関係者が自発的に関わって頂かないと進まない。それができれば優先課題としてあげてもかまわない。提案をされた方を中心になって進めていくことと思うが。
- (知床財団) 事務局がよければ。
- (事務局) ケイマフリ(海域レクリエーション)については、一昨年の科学委員会の中で対策の必要性が指摘されたため、検討を開始した。カムイワッカについては別の検討の場があるためそちらで議論をすることを考えていた。
- (座長) アクセスコントロールについては別の検討の枠組みが必要となるが、財団で準備は可能か。
- (知床財団) 勝手に立ち上げてよいのか。また既存の協議会は膠着して全く進まない。そのため新しいワーキングを立ち上げて、専門家の助言をいただきながら進めたらよいのではと提案している。
- (座長) 既存の協議会が進まない事情はわかるが、過去できないからできないという判断はしない。もし優先課題として必要であれば、このメンバーの中で検討体制を組むことになる。膠着しているからなんとかしろと言うだけでは何にも進まない訳で、事務局にも限界があるため、ここでワーキンググループが承認されれば検討を進めてかまわないという認識だが。
- (知床エコツーリズム推進協議会) カムイワッカ地区自動車利用適正化対策連絡協議会は確かに膠着しているが、何にもしていないという訳ではない。この協議会もそれなりに会議しているので、もしご意見あるのであれば、協議会の中でご意見すべきだと思う。
- (羅臼町・知床世界自然遺産協議会) すべて大切な課題であり、一つの部会に入ってしまうと、他の議論に加われるのが心配になる。
- (座長) 複数の部会に入ることは自由であり、この検討会議のメンバー以外も必要であれば参加いただいて構わないと考えている。事務局は何か考えがあるか。
- (事務局) 同様の考えである。
- (小林委員) 話を前に戻すようだが、資料4-1には個別協議会は将来的には適正利用・エコツーリズム検討会議にて実施する体制に移行することが適当とある。ということはどんどん多様化しすぎて収集つかなくなり、1年かけてエコツーリズム戦略の骨子

を作るといったところで整合が取れなくなってしまう。移行ステージを2年目からにしないと議論がかみ合わなくなると思う。今年度については既存の協議会で検討を行い、二年目には本検討会議に組み込むこととしないと進めづらくなると思う。

(事務局)それが望ましいということであれば、そうになっていくが、個別協議会にはここにきているメンバー以外の人物もたくさん参加しており、それでも個別協議会での合意形成の結果、本検討会議に入りたいとなればそうなるが、それが可能かどうかかわからない。

(座長)それぞれの協議会が移行可能かということだが、関係者はどうか。

(知床エコツーリズム推進協議会)五湖の利用のあり方協議会、カムイワッカ地区自動車利用適正化連絡協議会の中に入っているが、いま判断は難しい。ただ1年で移行というのはよいと思う。検討には時間をいただきたい。

(座長)1年目処ということならば検討したいということだが、他はどうか。

(斜里町)カムイワッカ湯の沢利用対策協議会については私の一存で即断はできない。資料にあげられている検討すべき課題という所に含まれていない課題もある。膠着の理由として行政の縦割りや誰がどうコントロールするのかといった難問がある。この検討会議で扱うのはかなり負担になるのではと思う。

(座長)1年で統合は可能か。

(斜里町)カムイワッカであれば、環境省、森林管理局、北海道、警察など関係者と考え方や仕組みも整理する事になると思うが、それができるのであれば良いと思うが、そうでなければ現状とあまり変わらないかと思う。

(事務局)現行の管理体制を前提に議論することになる。

(座長)具体的に解決できない事もあり、解決には時間がかかると思うので、ここで共有をした方が、新しいメンバーで新しい知恵もあり、支援もできるのでメリットが大きいと思う。

(斜里町)持ち帰って検討したい。カムイワッカに関しては、スピード感が必要だといった話もあるのでご承知おき願いたい。

(事務局)カムイワッカは早急に方向性を検討する必要があるととらえている。また知床五湖の利用のあり方協議会については、個々の協議会が合意するのであれば、協議会において今度提案したい。

(座長)どのような課題があるのかというのを共有するという事であり、個々に持っている課題がすべて解決しなければ統合しないというのではない。また全体の場で解決が図れるものは図りたい。個別に課題だけが解決されるのももちろん良いが、それが全体の場で起きる事でいろいろな効果が見える。目処としては1年を考えたい。

(知床ガイド協議会)我々は民間の任意の団体なので枠組みという事に馴染みが無い。下位・上位・統合するとかといった意識を持ったメンバーはいないと思う。持ち帰りたいのはそもそも枠組みの中でガイドラインや独自のルールを作ってやってきたのだが、それがこの大きな枠組みの中でやってきたという意識ではないということである。ただ議論を進める中でこういう中でやった方がいいものもあるとは思っているので検討したい。

(座長)統合といった言葉には語弊があった。各協議会で検討したことを、この場で情報共有する体制になると考えた方が良く、上位下位ということはない。

(中川委員)ケイマフリや海域レクリエーションの問題が、重要ではないといった意見があったが、私はそうは考えていない。海域利用は新しいレクリエーションとして非

常に魅力的であるが、一方で希少種、海域の生物に与える影響も十分把握されていない部分が多く重要と考えている。

(座長)それぞれの課題は皆、重要だと考えていると思うが、関心のある方々が検討体制を組み、事務局にご支援頂ける場合には優先課題として立てて行きたいと考えている。しばらく不慣れな会議運営になると思うが、ご協力を願いたい。事務局からなにか要望などあるか。

(事務局)当初個別優先課題として書いたのは、羅臼側1カ所、斜里側で1カ所、全体で一つという3つ程度という考えであった。事務局の体制上、各会合に出席が必要でありそれが限界と考えていたのが正直なところである。

(座長)事務局の能力には限界があり、皆様のご協力、ご理解を賜りたい。今後皆さんから資料など提供いただき検討を進めていくような形で考えていきたい。

以上午前終了

午後開始

#### (6) 個別課題について(続き)

**資料2-5: 羅臼湖地区における課題と対策**

**資料2-6: 知床連山地区における課題と対策**

**資料4-4: 羅臼湖の利用のあり方について(案)**

(事務局)資料2-5、2-6、4-4に基づき羅臼湖、知床連山地区の課題について説明。

(斜里山岳会)知床連山地区について、登山利用者の大多数が羅臼岳の日帰り登山となっているのは確かだが、これは硫黄山登山口が利用できないために、縦走利用が減っているということを理解いただきたい。

(知床財団)知床連山地区の最大の課題は、道道が歩くこともできないため、硫黄山登山口が利用できないことである。これについての対策に全く触れていないのはいかなものか。

(座長)今の話題に関連して、科学委員からのコメントを願いたい。

(石川委員)財団の意見と同じ認識である。ニッ池に関して、ルートをどうするかというだけでなく、硫黄山登山口が使えるか使えないかということで、人の動きが大幅に変わる可能性がある。それと整合性を取りながら、硫黄山登山口をどうするかを検討することが非常に重要だと思う。

(座長)連山のあり方の資料は用意されていないが、事務局から何らかの説明が必要と考えるが。

(事務局)硫黄山登山口がどうなるかということが課題だが、道路管理者である北海道の担当者も加えてカムイワッカの協議会で集まる際に検討したい。

(斜里山岳会)カムイワッカの自動車利用適正化対策連絡協議会はあくまでもシャトルバスの運行と一般車両の乗り入れ規制について協議しているのであって、カムイワッカと硫黄山の登山口・下山口の部分の通行については、主たる議題にならない。道路管理者の振興局と協議するのは構わないが協議会では議題にならない。きちんと道路管理者と協議をする場を持ち解決を図って欲しい。

(事務局)協議会の場で議論するという訳でなく、関係者が集まる機会を利用して別途相談しようと考えている。

(小林委員) 議論すべきは、一般道において知床のような環境の際、どのような道路管理をするかということ。この場所で都会の真ん中と同じようなりスク管理をして、絶対事故ゼロに維持するのかどうか、関係者間で議論していただきたい。

(座長) 今リスク管理の話もする必要があるとのご指摘だったが、是非小林委員にも話し合いに入ってもらいリスク管理の話をして議論して頂きたい。

(小林委員) 了解。

(羅臼町・知床世界自然遺産協議会) 岩尾別の登山口に関して、路上駐車が問題になっているが、違法の判断の仕方について確認したい。羅臼湖についてはわざと車を止め難くしているのか、法的に駐車してはいけないのか、はっきりしてくれれば強く指導できる。法的な解釈として絶対違法なのかという事を聞きたい。

(事務局) 警察に確認し後日回答する。

(座長) 他に意見がなければ、羅臼湖については示された枠組み、スケジュールで検討を進めたい。(合意)

なお羅臼湖の利用の問題については、そもそも利用のコントロールの問題の先に、将来的にどのように保全・利用していくのかという皆さんの合意が無い以上、その手段の事を議論するのは後になると思う。したがって先に部会の中で羅臼湖の将来像について合意形成してから細かい手法を選択していくことを提案したいがいかがか。(合意)

(事務局) 資料2 - 5に羅臼湖の基本計画が整理されており、基本的にこれが検討のベースになる。

(座長) これ以外もあると思うが部会で検討をお願いしたい。次のテーマに移りたい。

#### **資料2 - 7：先端部地区における課題と対策**

#### **資料2 - 8：ウトロ海域における課題と対策**

(事務局) 資料2 - 8、2 - 8に基づき先端部、ウトロ海域の課題について説明。

(座長) 先端部については個別会合の記載がないが、準備でき次第開始するということによいか。

(事務局) こちらの体制も見ながら、ご提案したい。

(知床財団) 先端部は優先課題に挙がっていないが、早急に取り組むべき。昨年もトレッカーとヒグマとのトラブルが発生したりしている状況で、心得の策定、ルサフィールドハウスの整備だけでは周知は徹底できない。また羅臼側のトレッキングルートの侵食の拡大による植生の破壊、高巻キルートの浸食拡大による落石の危険性などもある。さらにルシャ地区においては、沢登りの利用者が事前情報無しで立ち入ったり、また道路の立入が制限されているにもかかわらず、カメラマンが利用している状況がある。このような危険な状況に対応するには、全ての利用者たちが自然センター、遺産センターなりに立ち寄って必要な事前情報を得て、送り出すというしくみ、すなわち全域を利用調整地区にするしかない。このことは利用適正化検討会議の事務局レベルでは目指していたことであり、環境省の所長も近い将来目指すと明言されていた。それが対策の最重要課題である。

(座長) 先端部地区も重要な課題ということは理解できたが、事務局も手一杯であり、財団の方で、今のご指摘事項を踏まえて提案していただき、部会創設をお願いできないか。科学委員会としてもおそらく間野委員が参加できる。

(知床財団) 了解。

- (座長)事務局それでよいか。
- (事務局)利用のあり方の検討はそれで良いが、制度設計については行政の関わりが必要でありご相談させていただきたい。
- (小林委員)適正利用の検討の中で、利用調整地区の導入というのをやりましようとなっているが、おそらくそれはすぐではなく、数年後になるかもしれないが、今から始める検討はそれを見越した内容であるべきで、二つのトラックを平行に走らせて行かないと、後々整合が取れなくなる可能性がある。したがってこの件については相互に連絡調整して進める必要があると思う。
- (座長)特に異論が無ければ先端部、ウトロ海域についてはそういう枠組みで進めたい。
- (合意)

### 資料2 - 3 : 知床五湖地区における課題と対策

### 資料2 - 4 : カムイワッカ地区における課題と対策

- (事務局)資料2 - 3、2 - 4に基づき知床五湖、カムイワッカ地区の課題について説明。
- (知床財団)カムイワッカの問題について、硫黄山登山口の問題が欠落しているのはなぜか。また知床八景であった、カムイワッカ展望台にも行けなくなった。何のための道路工事なのか。それも大きな課題である。それに対する対策の方向性についても、具体的に示してほしい。
- (座長)今の指摘を受け、事務局は改めて課題の整理を願えないか。
- (事務局)既存の協議会でされている、マイカー規制の議論を元に記載している。確かにその課題はある。登山口の問題は知床連山の課題、アクセスに関してはリスク管理の課題に関連してくると考える。
- (座長)詳しい内容について、配付資料について再調整願いたい。なお午前中の審議で先行協議会については、ほぼ1年以内に集約するという方向性になっており、全体としてその方向をお考えいただきたい。
- (小林委員)五湖の方ではかなり議論が進んできている。この適正利用・エコツーリズム検討会議の課題は、資料4 - 3の中にあるように、エコツーリズム戦略策定の三つの目的(適正な利用により、多様な野生生物を含む原生的な自然環境を後世に引き継いでいく。エコツーリズムの推進により、利用者により良い自然体験を提供する。エコツーリズムの推進により、地域経済の発展を促進する。)ということである。ということであれば、五湖の利用に関する検討の際に、この3つの目的を先行的に議論願いたい。全体だけでなく、個別の検討の中でもどのように位置づけられるのかを示しておくべきではないか
- (事務局)五湖の利用に関しても、ヒグマの軋轢の解消、植生の保護、静寂な地上歩道利用、安全な高架木道利用、引率者による利用など、この3つの目的に関連して検討していると考えている。
- (小林委員)了解。
- (座長)他にないか。
- (知床エコツーリズム推進協議会)ゾーニングしてどう利用していくかだけでなく、希少動物、野生動物との接し方をどうするかという問題についても、全体で議論してほしい。また情報提供という部分では個別に検討していくという事だったが、しっかり検討してほしい。五湖の利用に関しても、地元できちんと認識されていない。間違っ

た古い情報が浸透しないように、こまめに検討結果を地域の人々に伝えていただければと思う。

(座長) 個別に検討の枠組みをたてるのは、多くの課題があり難しいが、ヒグマの検討部会などで取り上げていくようなことでよいか。

(事務局) ヒグマとの関係は、ヒグマの会議で検討したいが、希少動物の観察については、慎重に検討が必要であり、引き取って検討させて欲しい。

(座長) 次回までに議論の仕方をご提示願いたい。

(事務局) 五湖の件に関して、広報が足りないというご指摘だが、広報に関しては、両町の全戸にニュースレターを発行する対応を考えている。また旅行者に対しては、観光関係者にご協力いただきながら進めていきたい。

(座長) 情報公開は重要であり、積極的に進めたい。広報に関しては、事務局だけでは難しく、両町の協力を得ながら、次回までに方法を示したい。

(知床財団) 文言の修正を提案したい。資料の4-2の中に環境収容力とあるが、これを仮に人の立ち入りによる環境への影響が無い程度とすれば、どこもかしこも環境収容力いっぱいに入れば良いというものではないと思う。例えば、先端部地区であればできるだけ自然環境への影響を極力避けながら、なおかつ素晴らしい知床ならではの原生体験をしてもらうことが極めて重要だと思う。例えば、知床岬について環境収容力と言えば、100人くらい入ってもまったく影響はないと思う。ただし、広い場所にぼつりと自分たちがいるから良い体験ができるわけであり、環境収容力いっぱいに入るのはいけないと思う。ここは環境収容力および提供すべき体験の思想、哲学あるいはデザインというような文言に変えたら良いと思う。

(座長) 資料の内容を再調整願いたい。

(事務局) いまの指摘に関して、資料2-1の14ページ目に書かれているとおり、自然生態系の観点だけでなく、自然体験の質の双方からなっていると考えている。

(座長) 時間となり、本日の会議を終了としたい。

#### 主な合意事項

- ・適正利用・エコツーリズム検討会議の推進体制について合意。
- ・既存の協議会や個別の検討の場については、1年を目処に本検討会議との連携・統合を目指す。
- ・全体テーマとしてエコツーリズム戦略を策定していく。
- ・個別のテーマは検討体制の整理ができた段階から順次取り上げて解決を図っていく。
- ・科学委員のメンバーが積極的な支援・参加をする。
- ・個別テーマに関して、小林委員(カムイワッカ)、間野委員(先端部)が直接参加をしていく。
- ・エコツーリズム戦略の策定・個別のテーマについては、それぞれの検討の場を開き、この場に参加していない人にも参加いただき、その経過・結果についてはこの場で報告・共有・合意を図っていくという枠組みとする。
- ・エコツーリズム戦略は1年目に骨子、2年目で具体化、3年目で合意形成というスケジュールとする。

(閉会)